

平成18年度

教育発達科学研究科 高等教育マネジメント分野

## 高等教育内容論 - 授業設計

木曜6限 担当：近田 政博

# シラバス

平成18年度  
高等教育マネジメント分野  
高等教育内容論 - 授業設計 (木曜6限)

## クラス内の方針

### \* 授業の基本方針

- ・ 受講生のみなさんが知的刺激を得られるように工夫します。
- ・ 明確な学習目標を設定し、これに達成するための課題を用意します。
- ・ 教員と受講生、および受講生間のコミュニケーションを促進します。
- ・ みなさんの職業経験を授業の中に活かせるような工夫をします。
- ・ みなさんの意見・要望を臨機応変に授業内容にフィードバックします。
- ・ 小さな課題を積み重ねることによって、問題意識を深められるような工夫をします。
- ・ 受講者の多様性に配慮します。
- ・ 努力が正当に評価されるような、公正な成績評価を行います。
- ・ みなさんが授業で得た知見を仕事に活かせるよう、授業内容・方法を工夫します。

### \* クラスの環境

寒すぎたり暑すぎたりしたとき、教員の声が聞き取れないとき、他の受講者によって授業が妨げられたと感じたとき、その他教室の環境に不快を感じたときは、遠慮なく教員に言ってください。みなさんの学習を支援するクラス環境を作っていきたいと思います。

### \* 授業の開始、終了時刻について

授業は 18:15 に始め、19:45 までに終わります。特別な理由がない限り、時間通りに始め、延長はしません。

### \* 遅刻・欠席について

遅刻や欠席をする場合は、できるだけ事前にメール・電話などで連絡下さい。メールなどを使ってフォローアップのための支援をします。

### \* 試験、追試験、再試験について

この授業は試験、追試験・再試験を行いません。授業中の課題提出で総合評価します。

### \* この授業に関する問い合わせ先

近田政博 (高等教育研究センター助教授) [chikada@cshe.nagoya-u.ac.jp](mailto:chikada@cshe.nagoya-u.ac.jp) 789-5692

## シラバス：基本情報

科目区分 高度専門職業人養成コース 高等教育マネジメント分野

授業タイトル 高等教育内容論 - 授業設計 -

開講時期 前期

曜日 木 曜日

時限 6 限

単位数 2

受講対象 教育発達科学研究科院生（社会人大学院生）

教室 高等教育研究センター会議室（文系総合館5階）

担当教師 近田 政博

所属 高等教育研究センター

他教師

電話 052-789-5692

電子メール [chikada@cshe.nagoya-u.ac.jp](mailto:chikada@cshe.nagoya-u.ac.jp)

ホームページ <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/gs/>

オフィスアワー 木曜全日（電話、メールで確認すること）  
（時間と場所）



## シラバス：授業概要

### 授業概要

欧米の大学では学務・教務担当の専門職員が新入生用のオリエンテーションや新入生セミナーを担当することは珍しくありません。日本の大学でも、大学職員が教育・授業のあり方について積極的に関わっていく時代になりつつあります。

この授業では、「授業づくりのおもしろさと難しさ」を受講生のみなさんに体験してもらいます。これまで大学職員の人には「聖域」的で触れがたい存在だった授業設計の基本を学び、授業を企画・実施するための基本ノウハウを身につけてもらうことをねらいとしています。

あなたは新進気鋭の大学教師になったつもりで、実際に新入生セミナーの授業を設計してもらいます。その際に重要なことは、大学のミッション・教育目標 - 科目の目標 - 授業の目標というように、自分の授業の位置づけを明確にすることです。授業の目標を立てたら、評価の基準と方法を定め、具体的な実施計画を伴ったシラバスを作成してもらいます。

新入生セミナーで重要なことは、学問の専門的内容ではありません。高校を卒業したばかりの新入生をいかにスムーズに大学生活に移行させ、「自分から主体的に学ぶ」ことの楽しさと大事さを理解してもらうことにあります。そのためには、教師自身が楽しく取り組めるような内容を考えてみましょう。

### 授業の目標

この授業を受けることによって、あなたは次のようなスキルを身につけることができます。

- ・大学の教育目標や科目目標に沿った授業目標を立てることができる
- ・シラバス作成上の基本要件を説明することができる
- ・明確かつ適切な成績評価基準・方法を示すことができる
- ・授業目標に沿って各単元の目標や授業外の学習課題を設定できる

この授業は4つの単元( 自分の授業の位置づけを考える 授業の目標を立てる 評価の基準と方法を定める 授業時間外に取り組む課題を設定する)から構成されています。

各単元は、レクチャー 作業 発表のサイクルになっています。最終回は、できあがったシラバスをみんなの前で発表し、意見交換を行います。

この授業では次のようなキーワードが登場します。

大学のミッション、教育目標、コア・カリキュラム、シラバス、学習成果のプロフィール、授業目標、形成的評価と総括的評価、絶対評価と相対評価、実証主義的学習と構成主義的学習、成績評価の基準と方法、モジュール化、協同学習など。

### 教科書

予習教材集を最初の授業で配布します。

### 参考資料・文献

発展的学習のための文献は別紙を参考にしてください。

成績評価の方法  
単元ごとに課題を発表してもらいますので、その達成プロセスと成果を評価します。各単元では出席状況、授業への参加度、提出課題の内容を総合判断して、0～4点で評定します。4点×4単元＝16点満点で最終評定します。

成績評価の基準は、合計点13～16点：A、11～12点：B、9～10点：C、～8点：不可とします。

#### 履修条件

・自分の大学の授業にはいろいろ問題を感じているが、どのように改善したらよいか方法論を学びたい人を歓迎します。

・大学教授法や授業設計に興味のある方を歓迎します。

#### 注意事項

・この授業では、オンライン授業支援ツール『ゴーイングシラバス』を活用しますので、インターネット環境が必要です。『ゴーイングシラバス』は学外からもアクセス可能です。

・この授業では小さな課題をたくさんこなしながら、授業設計スキルを身につけていきます。

・授業計画に指定された課題は、当日の正午までに「みんなの部屋」の該当する部屋に書き込むか、あるいは添付ファイルで送信してください。

・課題レポートはA4サイズ、氏名、ページ番号、引用文献を明記してください。

## シラバス：授業計画

日付	授業内の学習活動	当日の授業までに行う学習活動
4月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介</li> <li>・シラバスの説明(授業の目標、進め方、成績評価などについて)</li> <li>・成果発表「私のシラバス」について</li> <li>・授業デザインの基本的な考え方</li> <li>・「ゴーイングシラバス」の使い方</li> </ul>	
4月20日	第1単元:自分の授業の位置づけを考える <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー(ミッションとは何か、カリキュラムとは何か)</li> </ul>	以下の文献に目を通し、それぞれ200字程度のコメントをみんなの部屋に書き込む。 松下佳代(2003)、川嶋太津夫(2000)、杉谷祐美子(2005)
4月27日	第1単元:自分の授業の位置づけを考える <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に取り組む(大学のミッション - 教育目標 - カリキュラム目標 - 科目目標の関係を明らかにする)</li> <li>・課題発表と意見交換</li> </ul>	あなたの大学のミッション、教育目標、カリキュラム目標、科目目標について調査し、「ワークシート1」を作成しておく。
5月11日	第2単元:授業の目標を立てる <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー(シラバスとは何か、学習成果のプロフィール、授業目標の表現方法)</li> </ul>	以下の文献に目を通し、それぞれ200字程度のコメントをみんなの部屋に書き込む。 近田政博(2004)、田中浩朗(2003)、池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹(2001)
5月18日	第2単元:授業の目標を立てる <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に取り組む(学習目標のプロフィールを立てる、授業目標を表現する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたの大学の授業目標の事例について調査する。</li> <li>・あなた自身の授業目標について「ワークシート2」を作成しておく。</li> </ul>
5月25日	第2単元:授業の目標を立てる <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発表と意見交換</li> </ul>	課題内容に磨きをかけて、ゴーイングシラバスに書き込んでおく。
6月8日	第3単元:成績評価の基準と方法を定める <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー(成績評価の基準・方法、グレイディング・ポリシー)</li> </ul>	以下の文献に目を通し、それぞれコメントを200字程度のコメントをみんなの部屋に書き込む。 草柳香(2005)、大山泰宏(2003)
6月15日	第3単元:成績評価の基準と方法を定める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたの大学の成績評価基準と方法について調査する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に取り組む(成績評価の基準と方法を示す)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あなた自身の授業の成績評価基準と方法について「ワークシート3」を作成しておく。</li> </ul>
6月22日	第3単元:成績評価の基準と方法を定める <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発表と意見交換</li> </ul>	課題内容に磨きをかけて、ゴーイングシラバスに書き込んでおく。
6月29日	第4単元:授業時間外に取り組む課題を設定する <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー(授業目標に沿ったモジュール目標・課題設定、授業の方略)</li> </ul>	以下の文献に目を通し、コメントを200字程度のコメントをみんなの部屋に書き込む。 B.G.デイビス(2002)、 D.W.ジョンソンほか(2001)、 名古屋大学高等教育研究センター編(2005)
7月6日	第4単元:授業時間外に取り組む課題を設定する <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に取り組む(授業目標に沿ってモジュールの目標・課題設定を行う、授業の方略を立てる)</li> </ul>	あなた自身の授業の授業時間外の課題について「ワークシート4」を作成しておく。
7月13日	第4単元:授業時間外に取り組む課題を設定する <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発表と意見交換</li> </ul>	課題内容に磨きをかけて、ゴーイングシラバスに書き込んでおく。
7月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果発表「新入生向けオリエンテーション:私の授業計画」</li> <li>・自分の発表と他者の発表をレビュー</li> <li>・この授業で学んだことを振り返る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画を完成させ、OHPで公開発表する(一人10分)。</li> </ul>

この予習教材集に収められている文献の出典リスト

松下佳代(2003)「大学カリキュラム論」京都大学高等教育研究科開発推進センター編『大学教育学』培風館、63-85頁。

川嶋太津夫(2000)「学士課程カリキュラムに関する論考 - コア・カリキュラムをめぐって」神戸大学 大学教育研究センター編『大学教育研究』第8号、27-37頁。

杉谷祐美子(2005)「日本における学士学位プログラムの現況」日本高等教育学会編『高等教育研究』第8集、29-51頁。

近田政博(2004)「シラバスとは何か - アメリカの大学の事例より - 」『名古屋大学における全学教育 - その現状と課題』名古屋大学教養教育院、217-225頁。

田中浩朗(2003)「Syllabus とは何か」(未定稿)。

池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹(2001)『成長するティップス先生 - 授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部、50-72頁。

草柳香(2005)『学生の成績評価に関する組織的支援 - ミネソタ大学の事例からの示唆』名古屋大学高等教育研究センター就業体験報告書、55頁。

大山泰宏(2003)「大学教育評価論」京都大学高等教育研究科開発推進センター編『大学教育学』培風館、39-62頁。

B.G.デイビス(2002)『授業の道具箱』東海大学出版会、215-244頁。

D.W.ジョンソン、R.T.ジョンソン、K.A.スミス(2001)『学生参加型の大学授業 - 協同学習への実践ガイド』玉川大学出版部、11-41頁。

下記の予習教材は実物を参照してください。

名古屋大学高等教育研究センター編(2005)『ティップス先生からの7つの提案 - 教員編』12頁。

## 発展的学習のための参考文献

大学の基本的な教授法



- ・ W.J. McKeachie & B. K. Hofer (2002), *Teaching Tips: Strategies, Research, and Theory for College and University Teachers*, Eleventh Edition, Houghton Mifflin.
- ・ S. Cowley (2003), *How to survive your first year in teaching*, continuum.
- ・ バーバラ・グロス・デイビス(2002)『授業の道具箱』東海大学出版会。
- ・ D.W.ジョンソン、R.T.ジョンソン、K.A.スミス(関田一彦監訳、2001)『学生参加型の大学授業』玉川大学出版部。

#### 授業設計・成績評価の方法論

- ・ 名古屋大学高等教育研究センター編(近田政博、中井俊樹、鳥居朋子、中島英博、田中秀佳)(2004)『プロフェッショナル・スクールのための授業設計ハンドブック』。
- ・ ラリー・キーグ、マイケル・D.ワガナー(高橋靖直訳、2003)『大学教員「教育評価」ハンドブック』玉川大学出版部。
- ・ 鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル 独学を支援するために』北大路書房。
- ・ 北海道大学高等教育機能開発総合センター編(2000)『北海道大学FDマニュアル』。

#### 日本の大学教育改革・改善

- ・ 有本章・羽田貴史・山野井敦徳編著(2005)『高等教育概論 - 大学の基礎を学ぶ - 』ミネルヴァ書房。
- ・ 大学教育学会 25 年史編纂委員会編(2004)『新しい教養教育をめざして 大学教育学会 25 年の歩み 未来への提言』東信堂。
- ・ 京都大学高等教育研究開発推進センター編(2003)『大学教育学』培風館。

#### 学生を授業に参加させるための方法・ノウハウ

- ・ 溝上慎一(2006)『大学生の学び・入門 - 大学での勉強は役に立つ!』有斐閣アルマ
- ・ 名古屋大学高等教育研究センター(2006)『名古屋大学新入生のためのスタディティップス - 「学識ある市民」になろう』プリンテック。
- ・ 名古屋大学高等教育研究センター(2006)『名古屋大学新入生のためのスタディティップス - 自発的に学ぼう』プリンテック。
- ・ 名古屋大学高等教育研究センター(2005)『ティップス先生からの7つの提案(教員編、大学編、学生編)』プリンテック。

#### 大学のカリキュラム論

- ・ 名古屋大学高等教育研究センター編(2006)『大学における教養教育カリキュラムの比較研究』報告書。
- ・ 有本章編(2003)『大学のカリキュラム改革』玉川大学出版部。

#### 成人教育の教授法

- ・ マルカム・ノールズ(鳳薫夫・三輪建二監訳、2002)『成人教育の現代的実践』鳳書房。

#### Eラーニングの教材作成法

- ・ 中井俊樹、山里敬也、中島英博、岡田啓(2003)『eラーニングハンドブック ステップでつくるスマートな教材』マナハウス。

#### 参考サイト

文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室

『大学における教育内容・方法の改善等について』

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/daigaku/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/index.htm)

名古屋大学高等教育研究センター

『ティップス先生からの7つの提案』

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven/>

名古屋大学高等教育研究センター

『成長するティップス先生 - 名古屋大学ティーチングティップス ver.1.2』

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/resources/link.html>

名古屋大学高等教育研究センター

『ゴーイングシラバス』

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/gs/index.html>

名古屋大学高等教育研究センター

『プロフェッショナル・スクールのための授業設計ハンドブック』(PDF)

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/publications/prohandbk/prohandbk.pdf>

名古屋大学高等教育研究センター

『大学教育関連サイト』

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/resources/link.html>

愛媛大学教育開発センター教育開発部

『授業の悩み Q&A』

<http://www.iec.ehime-u.ac.jp/iecweb/system/system/index.html>

北海道大学高等教育機能開発総合センター高等教育開発研究部

『成績評価を議論する』、『あなたの授業方法の悩みにお答えします』

<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/>

北海道大学高等教育機能開発総合センター高等教育開発研究部

『北海道大学 FD マニュアル』

<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/FD/toc.html>

京都大学高等教育研究開発推進センター

『大学授業ネットワーク』

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/jkp/index.html>

鈴木克明（熊本大学教授）

『インストラクショナル・デザイン・ポータルサイト』

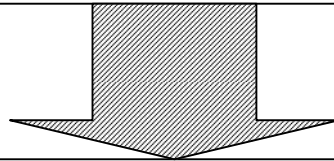
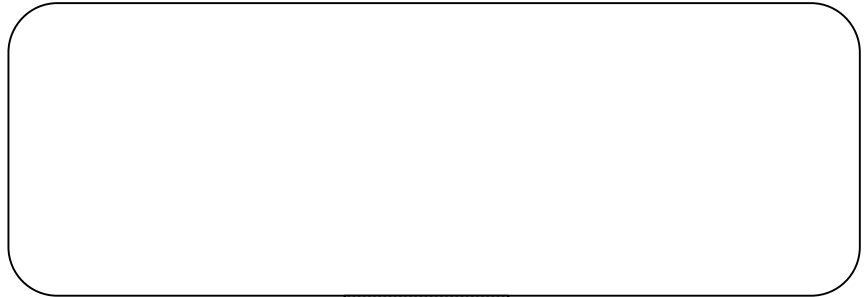
<http://www.et.soft.iwate-pu.ac.jp/edutech/id/index.html>

ワークシート1

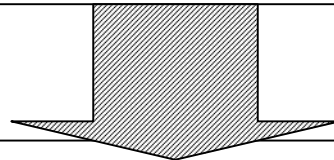
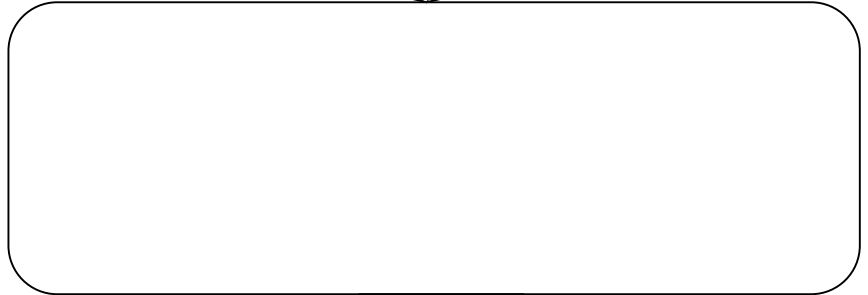
「大学のミッションから授業目標へ」

氏名 \_\_\_\_\_

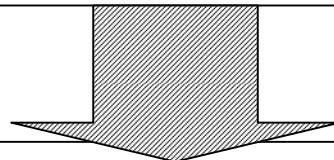
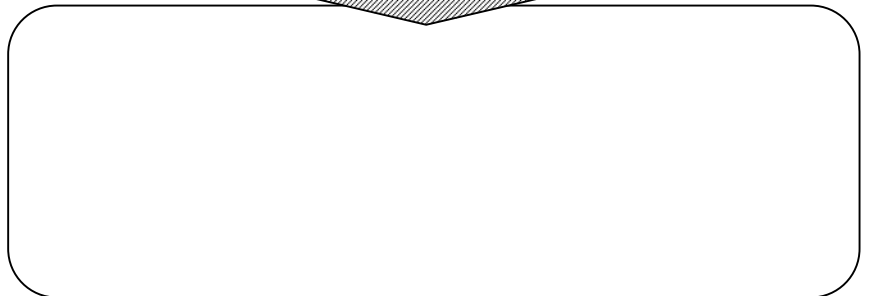
大学のミッション



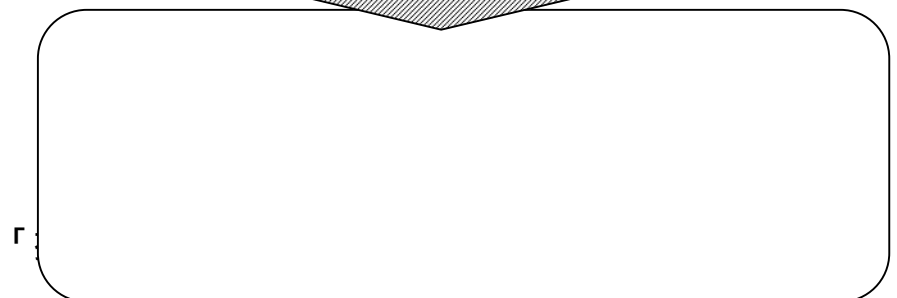
教育の目標  
(全学レベル)



教養教育の目標  
(プログラムレベル)



初年次セミナーの目標  
(科目レベル)



氏名 \_\_\_\_\_

授業のテーマ

新入生に訴える言葉で表現する

基本目標

達成すべき理念や目標をどう掲げるか

行動目標

基本目標をどのような方法でアプローチするか

ワークシート3

「成績評価の基準と方法を決める」

氏名 \_\_\_\_\_

	当日の授業内容	当日までの課題
--	---------	---------

成績評価の方法

成績を評価する手段は？ その割合は？

成績評価の基準

どこまでできれば合格点か？

第1回		
-----	--	--

第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 1 0 回		
第 1 1 回		
第 1 2 回		
第 1 3 回		
第 1 4 回		
第 1 5 回		

ワークシート 4

「授業時間外に取り組む課題を設定する」

氏名 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_